資料３

飯山市ゼロカーボンシティ宣言（案）

地球温暖化は、近年の台風災害の激甚化や頻発化をはじめ、集中豪雨による河川氾濫の増加、極端な高温による農作物の高温障害、熱中症リスクの増大をもたらすなど、すでに私たちの生活において深刻なリスクとなっています。

2024 年(令和 6 年)の世界の平均気温は、産業革命前と比べた際の抑制目標とされる 1.5℃を初めて超え、記録上もっとも高くなったと報道されるなど、温暖化の傾向は顕著です。このまま気温上昇が続けば、農作物の品質低下や雪資源の枯渇といった形で農業や観光など飯山市の主要産業へ打撃を与えるほか、先人が築き上げてきた地域の伝統文化や豊かな生態系にも取り返しのつかない影響を及ぼすことになりかねません。

飯山市は、市民・団体・事業者・行政が力を合わせ、二酸化炭素の排出削減に取り組み、2050 年(令和 32 年)までに二酸化炭素排出量が実質ゼロである「ゼロカーボンシティ」を達成します。そのため、次のとおり取り組みます。

1　化石燃料から非化石燃料への移行や雪氷熱の活用を含むエネルギー転換と省エネ、再エネ導入を進め、エネルギーの地産地消と持続可能な地域づくりに取り組みます。

2　市民・団体・事業者・行政がみんなで考え、一体となって取り組みます。

2025 年(令和 7 年)3 月 21 日

飯山市長

令和７年(2025 年)3 月　日

「飯山市ゼロカーボンシティ宣言」の経緯と令和７年度(2025 年度)の取組(案)

○飯山市は「第３次飯山市環境基本計画」で令和 32 年（2050 年）までのカーボンニュートラルの達成を目標に掲げています。

○その目標実現のため、令和 12 年（2030 年）までに取り組む省エネ・再エネ対策を整理した飯山市地球温暖化対策地方公共団体実行計画「区域施策編」を４月に策定予定です。（現在パブリックコメント期間中）

○この区域施策編の策定を機に脱炭素の取組みを進めるため「宣言」を行うものです。

○区域施策編の内容に沿った脱炭素の取り組みを進めるため、新年度予算でカーボンニュートラル推進のため、補助メニューを拡充しています。

※令和６年度(2024 年度)：550 万円→令和７年度(2025 年度)：2,500 万円（約５倍）

■令和７年度(2025 年度)補助金メニュー

※重点目標：化石燃料（灯油・ガソリン）消費削減、再生可能エネルギーの導入促進、省エネの推進

【新規】

・電気温水器	対象経費の 3/10（上限 20 万円）
・電気自動車・燃料電池車	45 万円 or35 万円
・高効率エアコン	対象経費の 1/4or1/8（上限 10 万円）

・太陽光パネル　1 kW あたり 10 万円（上限 50 万円、対象経費の 1/2）
・蓄電池　1 kWh あたり 10 万円（上限 50 万円、対象経費の 1/2）
・エコアクション登録補助金　2 万円
・LED 照明導入補助金　対象経費の 1/4（上限 1 万円）

合計 2,500 万円

（裏面へ）

■飯山市が令和7年度(2025年度)に推進する事業計画

○令和7年度(2025年度)より「プラスチック製品ごみ」の分別収集・リサイクルを開始し、地球温暖化対策とごみ減量・資源循環の更なる推進を図ります。(市民環境課)

○雪氷熱の活用を推進するため、なべくら高原森の家センターハウスにおいて、夏場の空調として貯留した雪エネルギーを活用する実証実験を行います。(商工観光課)

○旧種菌センター施設を雪室として活用し、食品の熟成・保管、ブランド価値のあり方を見直します。(企画財政課)

○学校施設・福祉施設の照明LED化を進めます。(子ども育成課・保健福祉課)

○城南中学校で断熱ワークショップを実施します。(公民連携推進課)

○有機堆肥の活用やメタンガスの発生抑制に貢献する田んぼの中干しに取り組む団体へ交付金を支給します。また、生分解性マルチの活用に対する補助を行います。(農林課)

○公共交通の利用促進と交通事故抑止のため、免許証返納者に対する補助金(10,000円)の支給事業を行います。(保健福祉課)

○スマホアプリを活用して、目標歩数を達成すると景品が当たるウォーキング事業を行います。(保健福祉課)

○下水道施設のポンプを高効率化・小出力化し、電力量を削減します。(上下水道課)

○断熱性能の向上など省エネ基準に適合した市営住宅の建て替えを推進します。(移住定住推進課)